

平成23年度第2回中原区区民会議

日時 平成23年7月15日（金）14：00～

場所 中原区役所5階 502・503会議室

午後2時1分 開 会

1 開会

司会 それでは、定刻も過ぎましたので、ただいまから平成23年度第2回中原区区民会議を開催させていただきます。

本日の会議の議事に入るまでの間、進行を務めさせていただきます副区長の石澤でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日の会議に当たりまして、ご報告がございます。第1期から区民会議委員として活動されておりました芳賀委員から、昨日、7月14日付で一身上の都合により退任の申し出がございました。非常に残念ではございますが、委員退任後もこれまでと同様、中原区のためにさまざまな場面でご活躍いただけるものと存じます。

なお、本日は、吉房委員、松原委員、山川委員、お三方は所用により欠席との連絡をいただいております。

続きまして、さきの選挙で当選されまして、新たに区民会議の参与となられました市議会及び県議会の議員の皆様をご紹介します。

初めに、川崎市議会議員、押本吉司参与。続きまして、川崎市議会議員、川島雅裕参与。本日、川島議員におかれましては、所用のため欠席とのご連絡をいただいているところでございます。続きまして、川崎市議会議員、原典之参与。原議員につきましても少しおくられているようでございます。続きまして、川崎市議会議員、松川正二郎参与。

続きまして、神奈川県議会議員、日浦和明参与。それでは、以上の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

また、松原参与、吉岡参与は、所用により欠席の連絡をいただいております。また、潮田参与は、所用のため、時間が間に合えば出席していただけるとのことでございます。

また、板倉委員でございますけれども、30分ほどおくれるとの連絡が入っております。

2 区長あいさつ

司会 それでは続きまして、中原区長の小野寺よりごあいさつを申し上げます。

区長 皆さんこんにちは。中原区長の小野寺でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本日は、お暑い中、またお忙しい中、中原区区民会議にご出席いただきまして本当にありがとうございます。また、参与の方々におかれましても、本日のこの会議にご出席いただきまして感謝申し上げます。新しく参与としてご出席いただいている方々もよろしくお願いしたいと思います。

この夏は電力不足への対応ということで、節電15%というような目標も掲げながらいろいろ取り組んでいるところでございますが、先ほど来、委員の皆様方も、いつもですとか

なり、がんがんにクーラーをきかせておりますが、大変暑いということで、お扇子で一生懸命仰いでいる方々もいらっしゃいます。区民の皆様に節電を訴え、お願いしているところでもありまして、中原区も率先して取り組まなければということで毎日頑張っております。特に区役所の中でも総務課のところは、まずはということで昼休みになると全部電気を消してしまいます。よく「やみなべ」というのがあるんですけども、真っ暗な中、「やみ弁当」ではないかと思うぐらいに愛妻弁当も何を食べているかわからないような、極端な話、そんな状況でも何とか節電に取り組んでいこうということで努力しております。

また、中原でもゴーヤーによる緑のカーテン事業を行っております。これにつきましても、今年も力を入れてやっていこうというようなことで、区民の皆様にもいろいろご紹介しているところでございます。また、東日本大震災以降、大変多くの方が震災について考え、そして防災につきましてもさまざまところで話し合われておりますし、この区民会議におきましても皆さん方と取り組み、そして、さらにそれには人と人とのきずなが大事だというようなことを改めて考えているところですが、これからもそれについて努力していきたいなと思っております。

さて、今期の2つ目の検討テーマである「地域における子育て応援体制づくり」についても、同様に中原区の人と人とのつながり、きずなづくりを求めながら取り組んでいただけたらと思っております。先の区民会議で審議され、部会を通じて様々な課題出しや、その検討をしていただきました。本日は、これから区民会議としてこのテーマに関してどのように具体的に取り組んでいくのかをご検討いただければと思っております。

また、本日は傍聴の方にも何人かいらっしゃっていただいております。区民会議への関心を高めていただいていることに大変感謝申し上げます。ぜひ委員の皆様方の審議を聞いて、またこれからに活かしていただけたらと思います。本日の会議がより実り多いものになりますよう、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、暑い中ですが、これからよろしくお願ひいたします。

司会 この会議でございますけれども、会議公開条例に基づきまして公開で行われるものでございます。また、会議録を作成いたしまして、これも公開することになりますので、ご了解をいただきたいと存じます。

それでは、事務局より、お手元の資料の確認をさせていただきます。

事務局 事務局の綱島でございます。それでは、資料の確認をさせていただきます。

まず初めに、次第でございます。続きまして、別添1、席次表でございます。続きまして、別添2、委員及び参与名簿でございます。これらを添付してございます。

続きまして、資料といたしまして、資料1、課題解決に向けた取り組み事項（案）でございます。

続きまして、資料2、地域における子育て応援体制づくりアンケートでございます。

続きまして、資料3、第3期の区民会議第2のテーマ「地域における子育て応援体制づくり」でございます。

続きまして、資料4、第3期区民会議テーマ（課題）アンケート集計（平成22年7月実施）ということで、課題調査部会に出した資料でございます。

続きまして、資料5、第3期中原区区民会議のスケジュール及び審議の流れでございます。

続きまして、参考資料1といたしまして、子育て世代の親子を対象とした交流企画について、これは反町委員からいただいた資料でございます。

資料につきましては以上でございます。

司会 資料に不足等はありませんでしょうか。

それでは、ここからの進行は委員長にお任せしたいと存じます。委員長、よろしくお願いいたします。

鈴木委員長 改めまして、皆様こんにちは。もう外は暑くて、ここは少しは冷んやりしているので、うちわであおぎながら、何とか2時間、しのいでいきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

3 会議録確認委員の選任

鈴木委員長 それではまず、会議録確認委員を決めさせていただきたいと思います。前回が反町委員と寺岡委員でしたので、名簿の順で恐縮でございますけれども、今回は富岡委員と藤嶋委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

4 議題

（1）第1回課題調査部会及び第1回運営部会の報告

ア 課題調査部会

イ 運営部会

鈴木委員長 それでは「地域における子育て応援体制づくり」につきまして、我々区民会議としてどのように具体的に組みんでいくのか、本日2時間ではありますが、審議してまいりたいと思います。

4月19日に第1回区民会議が行われました後に課題調査部会と運営部会が開催されました。まず、川連課題調査部会長、杉野運営部会副部会長からそれぞれ報告をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

まずは、川連部会長からお願いいたします。

川連副委員長 課題調査部会の資料としては、資料3になります。課題調査部会の説明をさせていただきます。

5月16日に課題調査部会を開催し「地域における子育て応援体制づくり」の取組につい

て審議をいたしました。今回、配付をしてあります資料3、区民会議委員から前もっていただいた意見を取り組みの方向性としてまとめ、この中に課題調査部会の区民会議として何ができるのかをつけ加えたものでございます。この何ができるのかが課題調査部会の各委員により区民会議の取り組みとして可能と考えられる方法の提案となっております。

まず、現場の実態調査が必要であるとのことで、子育て世代のニーズの把握、活動団体のニーズの把握、各町内会のイベント情報やその広報の方法などをアンケートなどで調査し、また、活動団体などにも、その調査の結果を情報として発信するというのが提案されました。

次に、様々な主体との連携体制づくりとして、団体同士や個人の連携促進、地域の商店や企業との連携促進を図ることが審議され、様々な場を通じて、ポスターの掲出やサロンなどの情報の提供を行い、既存の取組に区民会議委員が参加し、区民会議として協力し、取組の拡充を進めることが提案されました。さらに、子育て世代の集会やイベントへの参加、多様な世代、多主体との交流の場の提供として、学校との連携、老人いこいの家との連携、多世代の交流の場の提供、父親の子育ての参加の場の提供、親子の交流の場の提供、イベントの活用及び実施、就学世代の子供と地域のかかわりづくりが提案され、多世代間の交流の場として、またフリースペースの場所として、区役所のウッドデッキの活用が挙げられました。区への健診などに合わせて、遊びなどを通じて子育て中の親を含めてさまざまな世代の交流を図り、きずなづくりを形づくっていくことが提案されました。

そのほかには、あいさつや声かけ、スローガンの作成、子供の安心・安全のための取組を活用した地域との交流、ボランティア体験の提供における人材の確保などができることとして出されました。また、資料3の右端にあります「実行可能性と課題」については、この取組に関して行政との協働の可能性を示すとともに、今後、詰めなくてはならない事項を記載してございます。

以上が課題調査部会で提案された取組と審議内容です。

鈴木委員長 課題調査部会は、ここにある添付資料のように、多分ワークショップで次から次にいろいろ貼って行って、最後にまとめたのではないかなと思っております。大変だったと思いますけれども、テーマは絞られてきているように思いました。

それでは、運営部会を杉野副部長からお願いいたします。

杉野副委員長 それでは、運営部会の報告をさせていただきます。

7月5日に第1回運営部会が開催されました。運営部会では、先ほど川連課題調査部長から報告していただきましたが、その報告を受けまして運営部会を開催いたしました。課題調査部会の中では3つの提案があったと思います。1つは、子育て世代へのアンケート調査ということで、資料2がでございます。2点目といたしましては、既に取り組んでいる団体等への区民会議のネットワークを活用したかかわりでございます。3つ目といたし

ましては、多世代間の交流を目指した区のウッドデッキのスペースを活用した取組についてという、この3点について区民会議本会議に諮っていくことといたしました。

まず、1番目の課題、アンケートでございます。このアンケートというのはなかなか難しいものでございまして、統一に行っていないということで、これを新たにつくらなければいけないということで案として資料2ではないかと思えます。

子育てについてのアンケートは、その必要性、活用方法、調査内容、頒布方法などの検討が必要とされました。子育て支援を受けていない人たちの声を聞くことが必要とのことで、やっぱり我々区民会議の委員が出張して当たるということが大切なことかなと思えます。区役所で行われる健診等でアンケートを行うことも提案されました。

2つ目の問題といたしましては、既存の取組に関しては、その拡充に向けて、区民会議の委員が持っているネットワークを活かした協力、参加が重要であるとされました。そのためには、それぞれの取組がどういうところでどのように実施されているかという情報の収集、その共有、老人いこいの家や学校との連携など、さまざまな調整が必要との意見が出されました。

3つ目でございますが、区のウッドデッキを活用して区民会議の委員が企画し、区のイベントや健診等に合わせて、健診に来られる方は、子育てをされている方もいらっしゃいますし、されていない方もいらっしゃいます。そういうことで、多世代間の交流の場づくりということを本会議に提案することとしました。区民会議としてできることをやっていくことが重要とされました。また、区民会議を住民の方々に知っていただくということも非常に重要であるとのことで傍聴席が市民によって埋まるような形になっていけばいいのではないかという意見がございました。

次に「地域における子育て応援体制づくり」に続いて、第3のテーマにつきまして少し審議させていただきました。現在の委員が就任されたときのアンケートを参考に検討がなされました。しかしながら、課題を絞り込むというところまではいきませんでした。その中で来年4月が中原区の区制40周年になります。したがって、転入者が多く、そして若い世代の方も多いこの中原区を盛り上げていかなければいけないということで、その企画やイベント、これからの中原区をどういうふうにするかなど「区制40周年」をテーマにした取組を行っていくのもいいのではないかという提案がなされました。

以上が運営部会での審議内容でございます。どうもありがとうございました。

鈴木委員長 それでは今、課題調査部会と運営部会両方から報告がございましたけれども、課題調査部会の資料としては資料3になります。大変細かい字で書いてございますが、この右側の端を読むと「実行可能性と課題」と囲ってございまして、運営部会で提案させていただいたということになります。

まず、運営部会では地域における子育て応援体制づくりについてアンケートをとるということについて審議いたしました。昨年秋に防災についてのアンケートをとりましたけれ

ども、あのときも280という大変いい回答が得られました。若い人たちがどんなことを考えているのかということを手っ取り早く知る方法の1つでということで、今回もその子育て応援体制づくりにつきましてアンケートをとって見たらどうかと。アンケートをとる場所としては、例えば健康診断の場所であるだとか、いろいろ探せば、随分役所にはしょっちゅう赤ちゃん連れのお母さんたちが来ていますよね。保健所に問い合わせればもっともっと詳しいことがわかるかと思います。そういうところにアンケートをとるのはどんなものであろうかということが1つ。

もう1つは、我々区民会議がそれぞれの団体、既存の団体を活かして何かできないか。我々既存の団体が子育て応援体制づくりにそのまま協力できるような方法はないであろうかということが2つ目です。そこには今、皆さんおっしゃったように、区民会議の委員なんて一体何をやっているんだろう、一体だれがやっているんだか、さっぱりわからないということもあり、区民会議の宣伝も兼ねて、実はそういう既存の団体は我々区民会議に入っていて、このような取組をするんですよというふうに持っていったらどうかということが2つ目です。

それと、前も出ましたけれども、せっかくなんだから区役所の前のウッドデッキを活用したらどうだろうか、あそこでさまざまな催しものができるのではないか。例えば年齢に関係なく、多世代の交流だったり、コンサートであったり、あるいはまた、これから皆様からご意見を伺いたいと思いますけれども、ウッドデッキの活用なんかについて。運営部会としてこれらの提案を出させていただきたいと思いますので、皆様のご審議を伺いたいと思います。

では、ご意見がある方からお願いいたします。いかがでしょうか。今の3つのどれから答えられても結構でございます。

岡本委員 13日ですか、子育て支援のホットほっとという大戸のほうにある新城こ文のほうへちょっと行ってまいりました。そこは、私たち食生活改善推進員として時々行かせていただくところなんですけれども、そこで、皆さんといろんなお話をしてきました。そのときに、離乳食というのはお母さん方にはすごくネックになって、ストレスを感じているらしいんですね。その辺をよく聞いていただくと、皆さんもおわかりかと思いますが、私たちの子育て時代は自分が食べたものをちょっとつぶしてやればできるよという感じで、あまり離乳食に対してストレスを感じていなかったんですけれども、今どきのお母さんは、自分たちがお食事をしていることが、昔のように煮物をしたり、おみそ汁をしたりすることがほとんどできていないんですね。それで、栄養士さんともちょっとお話ししたんですけれども、私たちが軽く感じていることを、すごく重く感じているということで、お母さん方の食事を直していけば、もっともっとお母さん方がストレスを感じないで済むのではないかなということで、子供さんと一緒に音楽、音の出るような楽しい音を聞きながらそのようなことができれば、私たちはもっともっとストレスが解消され

るのではないかなというお話が出たわけなんです。

私たちもちょっと考えて、そうだな、お母さん方に今できることとして、基本のお食事をしていただくということ。こんな講座をしますということになると、お母さん方は構えてしまって、なかなかお見えにならないんですけれども、音楽を聞いたり、いろんなことをしながら、私たちもお食事をつくったら、皆さん離乳食って、こうなんですよ、気軽にできるんですよというようにできたらいいなと。

世代的に同じ子や、そうではなくて、もう少し大きなお兄ちゃん、お姉ちゃん、第1子というのは、お兄ちゃん、お姉ちゃんもいない。だから、そのようなところで一緒に音楽を聞きながら、こちらでは遊びをしながら、またこちらでは私たちのお食事を提供してあげるように、輪になったものができたらいいのではないかなということで、私たちも応援できるのではないかなと思ったんですけれども。

鈴木委員長 その場所は、先日お邪魔した場所であっても、ウッドデッキであっても、仮に例えば老人いこいの家であっても、別に構わないということですね。

岡本委員 例えばウッドデッキみたいなのところでできればいいかなとちょっと思ったんですけれども。

鈴木委員長 わかりました。それでは今、3つ提案をさせていただいたんですが、その中の1つにつきまして、岡本委員から既存のご自分の団体を活用してやったらどうかという意見を出していただきました。ありがとうございました。

（２）「地域における子育て応援体制づくり」

全体意見交換

鈴木委員長 それでは、我々の出した資料の中から、この資料1がありますね。資料1、2とあるんですが、それにつきまして審議をしていきたいと思います。事務局から、横長の資料1につきましてちょっとご説明をお願いしたいと思います。これはちょっと説明がないとわかりづらいですよ。お願いいたします。

事務局 それでは、資料1をごらんいただきたいと存じます。これは、今回の「地域における子育て応援体制づくり」課題解決に向けた取り組み事項（案）ということで、いつもの中原スタイルなんですが、地域・区民・区民会議の取組ではこういう形ができるのではないかと。続きまして、下のところに区民と行政の協働による取組というのはこんな形ができるのではないかと。最後が行政の取組の中ではこういう形ができるのではないかとということで、課題調査部会の委員の皆様方のご意見をいただいた中でまとめたものでございます。

詳細な説明につきましては、コンサルタントの石塚計画デザイン事務所のほうからご説明をさせていただきます。

石塚計画デザイン事務所 石塚計画デザイン事務所の牟禮と申します。ご説明させていた

できます。

課題調査部会における議論のまとめ及び運営部会における議論をもとに作成しております「地域における子育て応援体制づくり」課題解決に向けた取り組み事項（案）となっております。表は、横軸が取り組み内容（分野）、具体的な実行方法（解決策）、実行主体（協力依頼団体）、実施スケジュールとなっております。縦軸が地域・区民・区民会議の取り組み、区民と行政の協働による取組、最後に行政の取組ということで、全部で①から⑨の取組内容を書かせていただいております。

では、1項ずつ説明させていただきますが、①は子育て世代などの区民のニーズ把握ということで、後ろに「(A-1)」と書いてありますのは資料3の課題調査部会における議論の項目と対応しております。こちらの具体的な実行方法としましては、子育て世代の支援ニーズを把握するために「検診や、区民祭などのイベントの開催時に合わせてアンケート調査を行う」ということで、実施スケジュールとしては、アンケートの内容の検討を、健診時もしくはイベント時にアンケートの実施、集計を行うというスケジュールになっております。

②につきましては、子育て世代の集会やイベントに参加ということで、区民会議の委員が子育てサロンや子育て支援事業の開催時に参加し、お手伝いをしたりして、参加者の生の声を聞いたり、お手伝いをするということを書いております。

③、④につきましては、多世代交流の場づくりと書いております。

③の学校との連携交流につきましては、既にある小中高生が子育てサロンに参加して世代交流を図っているような、そんなよい総合学習の事例を取りまとめ、区内の学校に参考事例として紹介してはどうかということを書いております。これは、スケジュールとしては3月までに参考情報を取りまとめ、提供できるようなものにしておくということを書いております。

次に、④はイベントを活用した多世代の交流の場の提供ということで、先ほどのお話にありました検診や、区民祭などのイベントの開催時に合わせて区役所のデッキを活用した多世代の交流の場づくりを行うこと、さらにあわせて、子育てを応援するPRや情報発信を行うことを書いております。こちらもイベント等の実施をスケジュールの中に入れてあります。

⑤につきましては、団体の連携促進ということで、運営部会でも出されていたお話なんですけれども、上記のデッキを活用したイベントなどを行う際に、なかはらっぱの登録団体、いろんな各種団体に協力を仰ぎ、団体同士の連携を促進するための仲介役を区民会議が担い、協力してデッキのイベントを行ってはどうかということで、先ほど岡本委員のお話にもありましたような離乳食と音楽のイベントですとか、そういうことが考えられるかと思えます。

⑥は団体への情報提供ということで、アンケート調査で集まった結果は、きちんと地域

や活動団体に子育ての参考情報として提供を行いましょうと書いてあります。スケジュールとしては、アンケートの実施をした後、集計して、3月までに参考情報の取りまとめをするようなスケジュールを書いております。

⑦は区民と行政の協働による取組ということで、情報提供のあり方の検討を書いております。ホームページや広報誌などの子育て支援情報をまとめた情報メディアのあり方を検討するということで、こちらもアンケートの実施の後、情報をどのように入手しているかなどをアンケートで聞きまして、今後の検討の参考材料として取りまとめていくことを書いております。

⑧、⑨は行政の取り組みとして、子育て支援策の拡充、子どもに関する相談事は、区役所こども支援室の相談窓口につないだり、地域福祉計画と連携を図ることを書いてあります。

鈴木委員長 資料1の説明をいただきましたけれども、何かご質問はございませんでしょうか。いかがですか、大丈夫ですか。

ちょっと細かったんですけれども、まず、ニーズの把握としてはアンケートを行うことが提案されております。これは課題調査部会、運営部会からのまとめで、まずはアンケートをしましょうということで、実態調査を必要としますので、アンケートをうまく活用して、聞きたいこと、アンケートの内容、それからアンケートをどのように活かしていくか。アンケートも取りっ放しではどうしようもない、どのように活かしていくか、そういう方法で審議していく必要があると思います。とにかくアンケートをとるということで今、資料1では皆様に多分ご了解いただけたと思いますが。

次に、資料2について検討していきたいと思いますので、続きまして、事務局からの説明をお願いいたします。

事務局 資料2につきましては、先ほど資料1で具体的にアンケート調査を行いたいということで、資料2につきましては、2ページにわたり詳細なアンケート項目をつくらせていただきましたので、委員の皆様で見ていただいて、ここがまずいとか、こういうふうにした方がいいとかご意見をいただければと思っております。

それでは、これにつきましても石塚計画デザイン事務所の方からご説明させていただきます。

石塚計画デザイン事務所 アンケートについてのご説明をさせていただきます。

資料2は、A3判サイズ2枚のものになっております。なるべく簡単にチェックするだけの、記述は少ないものを目指し、A3、2枚以内、裏表になるような形のものとなっております。アンケートの構成としては大きく4つの構成をとっておりまして、1つ目は基本属性の把握、2つ目は子育てサービスの現在利用しているサービスの把握、3つ目は子育て支援情報に関するニーズの把握、4つ目は地域とのつながりのニーズの把握という構成になっております。1つずつご説明いたします。

1 番の基本属性の把握ということは、子供を取り巻く状況の把握ということで、回答者の年齢や性別、年代となっています。区のイベントや健診に連れてくる方は親とは限らないので、幅広い年代の方に年齢を聞いている構成になっております。お子さんの人数や、大体ゼロ歳から3歳、就学前、小学校低中高、中学生、高校生ということをお聞きしています。子供を取り巻く両親の就業状況やお住まいの地域を聞いております。

次の2つ目の子育てサービスにつきましては、子育てに関しての利用する施設やサービスの状況の把握ということで、自由筆記も含めて今利用しているもの、そのサービスに対するご意見、ご要望などの声も参考情報としてお聞きするようなものになっております。

問7は地域で利用したことのある公共施設や子育て支援施設を教えてくださいということで、親子連れの方、お子さんを連れの方がどんなところに来ているのかを聞いております。

問8は、ふだん利用している、もしくは利用したことのあるサービスを教えてくださいということで、その後、自由筆記で「要望、意見等がありましたらご自由にお書きください」という欄を設けております。

2枚目に移ります。大きな構成の3つ目は子育て支援情報となっています。子育てに関する情報について教えてくださいということで、目的としましては、知っている情報があるか、入手しにくくて困っている情報があるか、どんな手段で情報を入手しているかなどを聞きまして、既存の数ある子育てサービスの中で、上手にサービスを今後活用できるような有効な方法、手段は何だろうというような参考になる情報になるかと思います。

問9は、子育ての支援情報として、次の中で知っているものはありますかという設問になっています。

問10は、子育てをする上でどのような情報が少なくて困っていますかという内容になっております。

問11-1は、どのような手段で子育てに関する情報を入手していますか。

問11-2で、特に利用している手段は何ですかという設問になっております。

大きな構成の4つ目は地域とのつながりについて教えてくださいということで、地域のおつき合い状況の把握、多世代交流というキーワードで地域の子育てを支援するときの参考情報になるようなニーズを伺うためのものになっております。

問12-1は、子育てに困ったときに親戚や家族を含め、頼れる人や相談できる人はいますかという設問で、12-2がその質問で「いる」と回答された方がすぐ近くの来てくれるところにいらっしゃるかかどうかということをお聞きしております。

問13-1では、地域の中でご近所に顔見知りの人はいますかということで、問13-2では「いない」と回答された方、地域の中で気軽に相談できる人は必要だと思いますかという設問になっております。

問14-1は多世代交流ということで、子供からお年寄りまでさまざまな地域の人が気軽

に交流できる場は必要と思いますか。

問14-2、どのようなことが多世代交流の場で行われてほしいですかということになっております。

次の設問は、そのような多世代交流の場はどのような時間帯で行われることが望ましいですか、参加しやすいですかという設問になっております。その後、自由記述で、そのような多世代交流の場で話してみたいこと、日ごろ子育てをする上で感じている悩みやご意見をお聞きかせくださいという内容になっております。

鈴木委員長 今、資料2のアンケートについて説明をしていただきましたけれども、この内容につきまして何かご質問とかございますか。

青木委員 私ども丸子地区の子育てサロンあゆみを主催しているんですけども、大変盛会でございますので、そういう方々がこのアンケートを回答するに当たってちょっとつけ加えてもらいたいのは、問7の「地域で利用したことのある公共施設や子育て支援施設を教えてください」というところで、この中に「老人いこいの家」を入れてもらいたい。今、丸子地区では、小杉地区もたしか「いこいの家」でやっていると思うんですけども。

あと問11-1「どのような手段で子育てに関する情報を入手していますか」というところで、やはり私どもがやっているのは町内会の掲示板とか回覧ですから、町内会掲示板や回覧とかというののもちょっと入れてもらえればと思います。アンケートの回答にこのようなものをつけ加えていただきたい。

鈴木委員長 わかりました。回答の中につけ加えてほしいというところですね。利用している施設の中に「老人いこいの家」を入れてほしいということが1つと、どのような手段でというところの中に、区ですか、地区ですか。どちらでも掲示板というのを入れていただきたい。

青木委員 町内会・自治会の掲示板。

鈴木委員長 町内会及び市ですね。

青木委員 いや、町会ですから、町会・自治会。

鈴木委員長 町会もありますし、市の掲示板もありますし、区の掲示板もありますよね。

青木委員 そういうもろもろの掲示板。

鈴木委員長 要するに掲示板というのをに入れてほしいということです。

藤嶋委員 アンケートに回答する立場の人はいいいんですが、そこまで行かれないような人も大勢いるのではないかと思います。今すぐ医者が必要とするとか、相談の専門医、保健の方たちを必要とするとかいうような立場の人もいると思うんです。そして、紙1つにしても、丸をつけるのも本当におつくうでできない、そこまで心にゆとりがない人たちのことも考えなければいけないと思いますので、アンケートの下に、今すぐこういう医者とか専門医、保健師が必要な方はここへお電話くださいとか、そこまで手を差し伸べて、そこを

見てくれればいいんですが、そういうことも必要ではないかなと思います。子育てでは地域が一番そういうことがよくわかると思うんです。だから、地域の連携をもう少しこのアンケートの中に入れていいのではないかなという気もいたします。

鈴木委員長 ふだん利用しているさまざまな施設があります。あと緊急のときに連絡先を知りたいとか、何か困ったことがあったらこういうところに行ったらどうかというような案内みたいなものを入れたらどうかという意見でございます。アンケートの中にそういうものを入れることについては、皆様いかが思いますか。

「地域における子育て応援体制づくり」のアンケートなので、あいているところがありますよね。「子育てに関して利用するサービス・施設について教えてください」というのがあって、こちらが聞いているんですけども、逆に向こうに教えてあげると。このようなどころもありますよ、こういうところもありますよと。例えば緊急の連絡先がありますよとか、そういうのを入れても構わないと思いますけれどもという意見が出ております。

アンケートに関しましては、今意見をいただきましたので、大体これでいってもらおうということでお願いいたします。次に2つ目と3つ目の提案についてですがちょっと重なるかもしれないんですけども、例えば既存の取組にどのように我々区民会議がかかわっていくかということと、ウッドデッキの活用という、この2つをまとめて意見を皆さんから伺ったらどうかと考えます。

まず、既存の我々の団体、区民会議の団体ということにつきましては、岡本委員から、例えば離乳食のときにいろんなことをやってみたらどうかという意見が出ておりまして、場所は仮にウッドデッキでも構わないということが出ていますけれども、ウッドデッキに関しましては反町委員から参考資料1として意見が出ておりますので、それにつきまして反町委員からご説明をお願いしたいと思います。

反町委員 それでは、参考資料1といたしまして、子育て世代の親子を対象とした交流企画についてということで提案をさせていただいております。こちらの資料に沿ってご説明をさせていただきます。

区民会議におきまして「地域における子育て応援体制づくり」が議題に上がったこともございまして、以下のとおり、企画の提案をさせていただきます。私自身もここ中原区で行われている子育てに関する事業の幾つか、例といたしまして「こころとからだをHUGくもう！ の～びのび親子講座」。この親子講座というのは区内のこども文化センターさんのいろんな場所で行われるものだったんですが、それから「なかはらマタニティコンサート」などに携わらせていただいているとともに、私の同世代の友人はまさに子育て真っ盛りで大変忙しそうにしておりますが、とにかく大変関心がある事項でもあります。同時に小杉駅周辺の再開発に伴う新たな住民の方の中にも子育て世代の方が大変多くいらっしゃるということで、その方々により住みやすく豊かな日々を送っていただくためにもということで、この環境づくりは重要だと考えていたところでございます。

今回は、ウッドデッキの活用、イベント、健診のときに何かというようにいろんな情報もございましたので、それをまとめさせていただく形で子育て世代の方を対象とした新たなコミュニティ形成のための交流の場として、中原区役所の敷地内、ウッドデッキのところをイメージしておりますが、「ミニコンサート&カフェ企画」ということで、少し具体的な形で提案をさせていただきます。

企画名は、仮で子育て世代向け交流コンサート&カフェ企画としておりまして、具体的な名称は親しみのあるものにできたらと思っております、ママカフェなんて、すごくいいかなと思ったんですが、既にもうございますので、それはちょっと入れていないんですが、何か親しみのある名前にできたらと思っております。

開催日時は、中原区役所の健診ですとか、イベントが行われるときに合わせて行うのが効果的ではないかなと考えております。

開催場所に関しては、中原区役所内のウッドデッキ、ちょうどいいスペース、いい雰囲気のすてきな空間がありますので、そこを活かしていきたいと考えております。

目的といたしましては、子育て世代の方のための交流や情報交換の場と新たなコミュニティの形成といった形になってくるのかなと、とても大切なことだと考えております。

内容なんですが、子育て世代の親と子供になじみやすい内容のコンサートということで、先ほちょっと手遊びなんかということでちょっと意見も出ましたが、まさにそういう子供たちに楽しんでもいただけるような飽きさせない内容で、お母さんも安心できるような内容である必要があると思いますので、これまでやはり中原区の子育て関係のコンサートであったり、アーティストであったり、あるいは保育士さんであったり、そういうのが得意な方がいらっしゃいますので、そういう方の力を借りて、単なるコンサートではなくて、まさに今回の目的に沿った出演者であればいいのかなということです。

②なんですが、簡易的なカフェを設置して、コーヒーやお茶を楽しみながらくつろげる空間の提供。

③は、中原区の子育てに関する情報の提供などが重要かなと考えております。

最後になります。下のところですが、今回のポイントとしては、開催のタイミングを区役所で定期的に行われる健診、イベントなどですね。これまで健診の場合、終われば帰るだけだったところを、すぐそばというか、ほとんど通りのウッドデッキにこういったイベントがあることによって気軽に立ち寄っていただけるのではないのかということです。いちから人を集めるのは大変なことかと思うんですが、もともと対象とする方々が多く集まるような環境であれば、一定の集客が見込めるとともに、これまで中原区にもある地域のイベントに、特別何かそのためにとって外に出なかった、一歩踏み出していらっしゃらなかった方にもご参加いただけるきっかけになるのではないかなと思っております。

なお、当初はコンサートのみで考えていたんですが、やはり対象とされる方同士、子育

て世代の方同士の交流が非常に大切だと思っております、そのためには、これまでも実際に成功の事例もあるかと思うんですが、カフェの手法を取り入れることによって、その空間が単にステージ用の、コンサートだと演奏されている方の演奏に体に向けて、目で見て、耳で聞くといった形になってくるんですが、それをもう少し崩してくつろげる空間、リラックスしてコミュニティづくり。会話ですとかがその促進ができるような状況をつくっていく上で、カフェという手法は非常に効果的であると思っております。

最後になりますが、こういったイベントに関しては私も中原区でいろいろな形でお手伝いをさせていただいている得意な分野でございますので、実施に当たっての必要な作業はぜひ引き受けさせていただきたいと思っているとともに、これを実際により具体的に実現可能な企画にするために皆様の意見をちょうだいしたいと思っております。

すみません、長くなりましたが、以上でございます。

鈴木委員長 とてもいい提案をありがとうございました。これは全く、先ほど岡本委員がおっしゃったご意見、提案とコラボができますよね。これはもう完璧にできると私も思うんですけれども、5階のポリオの検診なんかのときに、ポリオを飲んだら、30分ぐらいここから出てはだめなんですって。何かあったら困るということで。その間、もうどうしていいかわからないわけ、どこに行ってもいいかわからないわけ。お母さんたち、子供とうろうろしているんですよ。赤ちゃんがいっぱいで、当番していても楽しいことは楽しいんですけれども、ああ、こういうときに例えばアンケートをすとか、こういうときに今みたいにコンサート。ウッドデッキまでちょっとおりてくださいって、コンサートを見たり、そのときに離乳食の相談をしてみたり、お母さんたちはコーヒーを飲んでみたり、おしゃべりしたり、例えば子育てについてちょっと不安だな、こういうことを聞きたいなというような心配事相談、何かそのようなコーナーを設けてみたりと、私は聞いておりました。皆様の意見をお聞きしたいと思います。

青木委員 定期健診というと、子供が何歳なんですか。結局、事故の問題とか、親と子が離れる、例えば保育とか、いろいろ出てくると思うんですが、定期健診は大体何歳ぐらいのお子さんなんですか。

鈴木委員長 もしこども支援室の方がいらしたらちょっと教えていただきたいんですけれども、例えばポリオだと何歳ぐらいまでとか、3歳児健診だとか、いろいろあると思うんですけれども、そういうのを教えていただければ。お願いします。

事務局 健診につきましては、3・4カ月健診と1歳半健診、3歳児健診が区のほうにお越しになれる対象になります。ポリオに関しては、1歳半ぐらいまでの段階でお受けになる方が多いです。

鈴木委員長 ですから、対象は、全体的に大体3歳前後ぐらいまでということになりますね。

我々が可能な取組ということで、余り背伸びしたことはできないと思うんですけれど

も、できる範囲の中で区民会議としてお手伝いできればとてもいいかなと思います。まず、アンケートを配るということに関してはすべての年代でいいですね。1歳未満のポリオ、一番小さい子育てで困っている人もいれば、3歳ぐらいのちょっとやんちゃになってきている人たちにもこのアンケートの内容を配るというのは、もう可能性は大だと思っていますので、それはもうフルに活用したほうがいいと思うんですね。とにかく我々区民会議として既存の団体を活かして何かできないかということで今、2つ、3つ意見が出ていますけれども、もしよろしければそれで推し進めていってみると。初めてのことでですから、試行錯誤で失敗するということも考えられますけれども、失敗を恐れていたら何もできないので、まずとりあえずやるだけやってみましょう、行政との協働でウッドデッキを利用してやってみましょうと。アンケートは早速つくってもらって、そういうのに合わせて……。

予定表がございますけれども、今後何回程度アンケートを配ることができるか。それから、いろんなイベントと重ならないように、保健所のイベントとは重なるようにすると、いつこれができるか。それらなんかを事務局で調べていただいて基礎的な意見を出していただいて、最終的に実行に移すというふうになっていくのではないかなと考えますけれども、いかがですか。

寺岡委員 アンケートを配る場合ですけれども、こういうイベントで配ると案外偏るのではないかなと思うんです。来る人は多分同じ人が何回かアンケートに答えるようなケースが出てくるのではないかなと思うんです。アンケートは結構いい内容を書いてあるので、できれば本当は乳幼児のお子さんを持っていらっしゃる家庭全部にこのアンケートを配れるような体制が一番いいデータを取り寄せられるのではないかなと思いますけれども、いかがなものでしょうか。

鈴木委員長 今、寺岡委員から、こちらに出張ってくる人ではなく、こちらから積極的に乳幼児がいる人全員に配れるような方法はないだろうかということでございますが、仮に、例えば保健所でこういう案内がありますよと送ったとしても、今度返信が困るんですよ。返信切手を買って、入れて、返信してくださいと。莫大な費用がかかるような気がするんですけれども、不安なこととしては。それから、今こども支援室からお話し伺いましたけれども、年代が違うと言っていますよね。子供が3人いれば、3歳も、1歳もいて、同じかもしれませんが、何回かの健康診断だとか、ポリオだとかだと、違う人が来る可能性が結構多いのではないかなと思うんですけれども、どうでしょうか。

私、なかはらっばで偶然2回ともポリオに当たったんですけれども、物すごい人です。たくさんの方が来るので、若いお母さん、若いお父さん、おじいちゃん、おばあちゃんも今はついてきますから、1人の子供に大人が6人ぐらい。それでその人たちに配ると結構いいアンケートになるかなとも思いますけれども、個人的には、全員に送って、全員からの回収というのは不可能ではないかなと思うんです。決めつけてはいけないんですけれど

も、皆さんの意見もお伺いしたいと思います。

青木委員 今、中原区では子育てサロンを15カ所でやっていますから、ある時点を使って、8月、9月の時点を使って一斉にやったらどうですか。そうすると、この区役所に来る人だけでなく、それぞれ5地区の状況がみんなわかるのではないのでしょうか。私は赤ちゃんの90%が地域の子育てサロンに来てもらいたいと思っているわけです。そういう意味で、地域の子育てサロンでアンケートをしたらと。

鈴木委員長 もちろん子育てサロンもアンケートの一部であるけれども、全員が子育てサロンに来るとは限らないと思わなければいけないので、子育てサロンにもし、それから、健診に来た人にもするということのように、本当は寺岡委員のように全員にというのが一番理想ではありますが、できる範囲の中で多くの人に回答してもらうとすれば、そういう意味では、定期的に同じ人が来る可能性が割と大きな子育てサロンよりは、健康診断のほうがどちらかという可能性が大きいかなと思います。

稲富委員 今回の子育てのテーマをやるときに、比較的小さなお子さんの対応というのはあったんですが、例えば小学生、中学生になったときの手助けができないかということも多分あったのかなと思っていました。そうすると、小学校、中学校を通じて、そのお母さんにお答えをいただくとか、教職員組合を通じてお願いすればできるかなと思ったり、区から学校に直接お願いしたり、そういった形の方が本来ターゲットのあるようなところの意見が吸い上げられそうな気がしているんですけども、いかがでしょうか。

鈴木委員長 今の稲富委員の意見は、そういう小さい子ではなく、小学校、中学校の親御さんのアンケートを学校を通じて区からとったらいいのではないかというお話、ご意見でした。もちろんそれもすばらしい意見だと思いますけれども、あっちもこっちもというのはちょっと無理かなと思うんですね。もちろんそれも支援の中に小学校、中学校はどうするんだとか、身体に障害を持っている人たちはどうするんだとか、こういう子育てサロンとかに来ない人はどうするんだとか、そういう意見もいっぱい出ましたよね。そういう人たちを応援するにはどうしたらいいかという意見も随分出たと思いますけれども、今回に限っては小さいお子さん。ちょうど地域における子育て応援体制づくりということで、例えば、川連副委員長の例を出して申しわけないですけども、子供が小さいときに夜泣きして、一晩じゅう奥さんと2人で町中をおんぶして歩いた、そのときはとてもつらかったとか、そのような話から、小さい子供さんを持っている人をまずやっていこうじゃないか。それから、吉房委員が、例えば、公園でお年寄りと小さい保育園のお子さんが触れ合ったらどんなにいいだろうか、おもちゃまで買って用意したよというような意見もありましたので、あくまでも段階を踏んでいきたいなと。離乳食というお話も出ましたので、できれば今回は……。

小学生、中学生になると、全く別問題になりますから、できれば今回は小さい、未就学児にターゲットを当ててやってみて、その上で、よしこれはいけるということになってか

ら、中学生に行っても全然難しくはないと思います。実は私、とどろき水辺の楽校の代表で来ているんですけども、今回、23、24日に127名をキャンプに連れていきますけれども、もう去年と今年では違いますよ。5年生で、去年こんなに小さかった子がこんなに大きくなっていて、人を見おろして「眞智子さん」なんて声変わりまでして。親はもうついてきませんから。親はもう手を放してしまっている、よろしくお願いしますなんていう感じで。そういう子ですから、考えることがもうこの段階からはずっとステップアップしていかないと無理なんです。ですから、私たちが区民会議でできる範囲の中でまずはやっていったらどうかと思うんですが、稲富委員、いかがですか。

稲富委員 ターゲットをそこに絞ってしまうということであれば、その中で議論をするのは全然やぶさかではないので、当初の目的がどうだったかなと思いましたので、一応聞いた次第です。

鈴木委員長 ということで、大変いい意見も出ました。小学校高学年、中学生までの意見というのは、実はその辺のお母さんたちが、本当のことを言うと一番悩んでいるのかもしれないんですね。子育てが楽しくて、楽しくてというのは3歳ぐらいまでで、それ以降はもう本当に——よく気持ちはわかりますけれども、とりあえずここでは、子育てサロンのお話から始まりまして、できれば小さい子供の応援体制をやっていければなということで、皆様の意見をいただき、とりあえず我々ができることは、まずアンケートをとりましょう。それから、既存の団体、今のところ反町委員の団体と岡本委員の団体しか出ていませんけれども、いや、うちもできるよというような団体がこれから出てくれば、既存の団体との交流を深めながら、ウッドデッキを活用して何かイベントをしましょう。それがコンサートであったり、カフェであったり、離乳食の相談であったり、いろんなことができると思うんです。ですから、その辺に絞って、大体3つぐらい、これでやれることが出てきたかなと思いますので、この審議はこの辺で終わらせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。いや、ちょっと待ってくださいというのがありましたら幾らでもお受けしますので、どうぞ。——大丈夫ですか。

それでは、一応実現可能なということで、我々区民会議としての意見を今出させていただきましたので、事務局のほうで調べてもらわなければいけないことがたくさんあると思いますので、よろしくお願いいたします。

（３）第３のテーマについて

鈴木委員長 それでは、次の議題であります。私たち「安全・安心のきずなづくりに向けて」ということで、まず1番目は防災をやったわけですね。2回目の今回は「地域における子育て応援体制づくり」ということで、いよいよ今度3回目のテーマ、次回のテーマを決めたいと思います。

次回のテーマなんですけれども、資料5に出されておりますので、ちょっとごらんいた

だいてよろしいですか。資料5のスケジュール表をごらんください。

今まで私ども「安全・安心のきずなづくりに向けて」ということで来ていますけれども、第1回区民会議で検討テーマ「地域における子育て応援体制づくり」ということで、本日が2回目でございます。それから、いよいよ第3回目が10月。日程的にはこれから事務局から詳しく説明があると思いますが、10月に行われるテーマを決めたいと思います。私ども第5回の区民会議までありまして、市民報告会が来年の5月です。5月まで一応区民会議の委員でございますので、次の第3回の区民会議のテーマをこれから皆さんと審議してまいりたいと思います。

先般、杉野運営部会副部長からお話がありましたように、区制40周年をテーマにしたかどうかという意見が出ました。ちょうど区制40周年にぶつかるので、その報告会も兼ねて40年を振り返ってというテーマもいいのではないかなというのが出たんですが、これにつきましてご意見のある方のご意見をお伺いしたいと思いますけれども、板倉委員、いかがですか。

板倉委員 区制40周年になるのは川崎市の中で5つぐらいですか。各区でいろんなことをやっていると思うんですね。中原区でも今、写真集の発行が計画されているようなんです。先ほどお話しありましたように区民会議も第3期が終了となりますので、市民報告会に特別イベントということで講演会のようなものをやるとか、簡単と言うと表現が悪いんですけども、簡単に考えるとそんなことができるのではないかなという気もいたしますが、どうでしょうか。

鈴木委員長 せっかくなので、区制40周年を区民会議のテーマにしたかどうかということで、例えば写真集。市が企画した40周年を振り返った写真集などのイベント。あと、いろんなことに区制40周年という冠をつけてやったらどうかということですね。例えば、シンポジウム、報告会、市民報告会をやりますよね。そのときに冠をつけて、区制40周年記念シンポジウム報告会みたいなこともできるのではないかな。

あとは、例えば、区制40周年なんていうバナーみたいなものをつくって、あちこちに張ったらどうかとか、区制40周年という、大体そのようなことが考えられ……。随分一般的な意見過ぎるんですけども、それ以外に何か、いや、そんなのではおもしろくないから、もっとこういうのはどうですかというような意見がございますか。

杉野副委員長 たしか7つの区全部が40周年ではないような気が僕はするんですね。私の記憶では、川崎区、幸区、中原区、高津区、多摩区の5つぐらいかなという感じがするんです。宮前区と麻生区はたしか後でできていると思います。その中で特に中原区は5つのうちの中心だったんですね。そういう意味を考えますと、やはりこのところ中原区はどんどん人口もふえておりますし、若い世代が多い区であるということです。そういう意味で、僕は大いにアドバルーンを上げたほうがいいかなと。

それと、「区民交流センターなかはらっば」を僕はもっとメインに押し出していただき

たいなと思っているんですよ。「なかはらっぱ」は様々な団体が登録し、それぞれが活動を行い、情報交換を行っています。どんどん出てきていただいて、これを機会に新しい転入された方々やイベントに絡めて若い人たちにもアピールできたらいいのではないかな。

鈴木委員長 5階に「なかはらっぱ」というのがあって、たくさんの団体が交代で当番をしたり、打合せをしたりしているんですが、板倉委員のまちづくり推進委員会が主に運営しているんですよね。

板倉委員 「なかはらっぱ」は、登録団体が中心となって運営している集まりで、まちづくり推進委員会はまとめの形でお手伝いをしています。市民館で17日に行われる「なかはらっぱ祭り」も所属団体の活動の交流の場としてとらえております。

鈴木委員長 ということは、「なかはらっぱ」も加えて、区民会議が主になって市民報告会に40周年記念ということで何かイベントを考えていくという方針でやったほうが区民会議の認知度を高めるためにもいいということになると思うんですが、そういうことにかんがみまして、工場協会としては、矢野委員、いかがですか。

矢野委員 区制としては40周年なんでしょうけれども、例えば、先ほど杉野副委員長から出ましたが、高津区は分区されただけですよ。そうすると、高津区としての40周年ってどうやるのかなという思いが今ぱっとしたわけです。40周年ということ自体をどうこうではないんですけれども、市全体として見た場合に果たしてどうなのかなというのがちょっとあります。区民会議のあり方としては、先ほどちらと出ましたような写真集云々。中原区としてのものだけで、余りに構えるのが、私、ちょっとぴんとこないんです。そうなりますと、当然予算の問題も絡むと思いますので、何らかのテーマを持ってやることはよろしいかと思うんですけれども、大上段に構えるとちょっと行き過ぎかなというか、違うかなという感じがしております。

それと、特に人口の増加の問題があります。40周年をアピールすること自体はよろしいんでしょうが、直近に来られた方にとっての40周年って何だろうなという感じがいたしますので、まち並み等々はもうまるきり変わってしまっているわけですから、古くからおられる方は懐かしがることも非常にあろうかと思えますけれども、この前も……。何か昔の地図で、裏表で昨今というのでございましたね。私どもの会社もそうなんですけれども、昭和32年に今の場所へ移ったんですが、もともとは戦前から中原区でやっておったんです。その地図を見たら、周りは全部田んぼですね。懐かしく思っ見ていたんですが、それは我々のことであって、新しく来た方は余りインパクトがないのではないかと私は感じています。

鈴木委員長 たしか小杉今昔マップというのでしたよね。

村山委員、今のお話を聞いて、新しい人たちをまとめている感じとしてはどうでしょうか。

村山委員 再開発の新住民と言っているのか、マンション住民は、地域の情報を非常に食欲に欲しがっています。私どものNPOでも1回、地域の商店街を冊子にしたものを全戸に配ったんですが、非常に喜んでいただきました。そういう意味で中原区というのは、この10年ですごく変わったと思うんです。ですから、先ほど写真集というのもありましたが、昔はこうだった、今はこうなっているというような写真集なんかを出して、新しい住民にも配れば、それはそれで非常に喜ばれることではないかなと思うんですね。予算もありますから、余り40周年で大々的にやるということではなくて、やはり記念のものを出すというような地域情報を改めて集めて出してみるというようなところがよろしいのではないかなと思います。

鈴木委員長 新住民の総まとめをしている村山委員からの意見でした。

松本委員 試行から数えて、来年で8年ですよ。ほぼ10年近く区民会議でいろいろ課題を取り上げて、よくなったところをすごくアピールしていけば、中原はこんなによくなったよというところを……。悪いところはたくさんあるんですけども、よくなったことをもっと皆さんにお知らせしていかないと、なかなか周知されていけないので。

あとは、この区民会議だと委員の意見しか出てこないんですけども、たまには出張して、例えば昔の区民懇談会ではないですけども、何かみんなと意見を言い合うような場も大切なのではないかなと思いました。

鈴木委員長 とてもいい意見ですね。場所を変えてミニ区民会議集会みたいなものもなかなかいいアイデアですよ。

富岡委員 やはり40周年というのはすばらしい年です。区切りでもありますし、やはりこういったときにけじめをつけまして、お祭りとかイベントをやるというのはとてもすばらしいことだと思っております。内容はいろいろありましょうが、今までの区民会議、松本委員が言ってきた、やってきたことを盛り込みながら、写真集だとか、講演会だとか、いろいろありましょうが、そういうのを組み込んでイベントをやればすばらしい40周年記念事業ができるのではなからうかなと思います。ちょっとほかに思いつかないもので、よろしく願いいたします。

鈴木委員長 要するに、松本委員も、富岡委員も、この40周年を機会に区民会議をもっと周知させましょうという貴重なご意見だったと思います。

川崎委員 余りまとまらないで、済みません。聞いていて、どうしたものかなというふうになだまとまりがつかないでいますので、もうしばらく待ってください。すみません。

大下委員 先ほど松本委員からもお話が出ました。まず最初に、運営部会から第3のテーマに向けてということで、40周年に向けてということなので、その手前、節目として今まで区民会議で取り組まれていたことは本当に幅広く浸透されていることもたくさんあると思うんです。なので、ちょっと検証してみる。1つの区切りとして振り返りをしてみて、さらにまた、どういったところにもう少し力を入れてやっていくかというような機会とし

て設けていただけたらと思います。

鈴木委員長 40周年って、1歳の人が40歳になるんですから、すごい経過なんですけれども、その中の8年を区民会議というのでいろいろなことをやってきたわけですね。最初のころは区民会議というのは、あくまでも意見を出し、検討する場であり、審議する場であるということが多く、実際に動いたりすることは余りなかったわけなんです。でも、最近、それではだめではないかということが随分ふえてきて、いろんな活動が目に見えるようになってきた。区民の人も、ああ、区民会議がやっているんだなというふうに、少しずつではありますが、ご理解が増えてきたのかなとも考えています。それにつきまして、例えば具体的にこんなことはどうだろう、あんなことはどうだろうというのを次回までに皆さんで考えてきてくだされば大丈夫だと思います。

矢野委員 40周年ということとなりますと、毎年ですけれども、中原も区民祭をやっておられて、10月かと思います。そうすると、区民祭で40周年という形の何かセレモニーなり何かがあるのかどうなのか、そこに区民会議としてどう絡むのか。時期はずれていますから、高津区はたしか7月で、宮前区は10月だったかな。同じような時だったと思いますけれども、年度としては同じになりますけれども、時期ずれがあるとしたと、4月が40周年のちょうどタイミングではあるかと思うんですけれども、区としての動きがある中での区民会議ということかと思うんですが、そこでちょっと今、何をどうという話はちょっとしづらいかなというのがあります。

鈴木委員長 事務局のほうで、区民祭と40周年のかかわりというのは何かあるんですか。
事務局 今度10月にやる区民祭につきましては基本的には実行委員会形式でやってございます。来年なんです、中原区であくまでも来年の事業の中で区制40周年という形で基本的には冠事業をつけて、各課でさまざまなイベントをやっていく予定です。仮に区民会議の方で、区民祭の中でそういったイベントとかがあれば、言っていただければ、また、来年の今ぐらいからちょうど区民祭を検討しますので、もしそういう形で入れられるものがあれば、その中で考えていきたいと思っております。

ちなみに、先ほど各委員からお話いただきましたように、来年、中原区でやるのは区制40周年の写真集ということで、この間、7月に写真集の編集委員会の第1回目を立ち上げまして、これから各区民の皆様から昔懐かしの写真等を応募していただいて、写真集を今年度中に編さんという形で、来年度販売予定というスケジュールになってございます。3月に写真集の発行前に市民館で写真集のプレイベントみたいなものを企画しているところでございます。

事務局からは以上でございます。

鈴木委員長 わかりました。写真集については区が先導してこのようなイベントをやっているということです。区民祭については、来年度ということでもまだ何もない。ですから、私たちが検討テーマで40周年に向けていろんなアイデアを出して、実施してくれるのは次

の区民会議の皆さんということになると思いますけれども、それでもだれかが企画して、きちんとしてあげないと実施できる人はいないわけですから、それについてもう少しご意見をいただきたいと思いますが、藤嶋委員、いかがですか。

藤嶋委員 ただいま区民祭ということが出たんですが、今回の区民祭は10月16日に決まっていますね。そのときに中原区区民会議という TENT を1つ設けて、40周年から今までの子育て、今までの8年をみんなに知ってもらい、そして来年度に向けてというようなこともいいのではないかなと思います。そして、あとシンポジウムみたいなものをミニ区民会議で開く。今までの中原区、今の中原区、これからの中原区ということを経験で取り上げて、またおもしろいのではないかなと思っています。

鈴木委員長 ことしの区民祭で区民会議という TENT、ブースをつくって、今までの区民会議、そしてこれからの区民会議というようなことでやってもいいのではないかと。そして、来年の40周年に向けてということでやったらどうかという貴重なご意見をいただきました。

ほかにはございませんでしょうか。ご自由に発言してください。川崎委員、なかなかぴんとこないと思うんですが、焦らずに、次回でも結構でございますから、皆さんのご意見を参考に出していただければなと思いますが、稲富委員、企業人としていかがですか。

稲富委員 企業という意味ではなかなか難しい部分があるのかなと思いますけれども、当然この40周年を進めていく上では協力できるところはいっぱいあると思いますから、そういった企業参加型のものを40周年に向けて取り組んでいくというのはやりたいと思いますけれども、このテーマとかということで言うと、特に企業の立場でというのは余りコメントしにくいです。すみません、まとまりがないので申しわけないんですが。

鈴木委員長 いえいえ、とんでもございません、ありがとうございます。

こういうのがあると一番盛り上がり、力を入れてくださるのが実は商店街なんですけれども、川連副委員長、商店街代表としていかがですか。

川連副委員長 今、商店街も大変役員をやる人が本当にいまして、うちも17日に新丸子駅前で100円売り出しの抽せん会を予定しているんですが、人数が集まるかどうかというのを今晚また役員会がありまして、そんなところで非常に困っておりまして、区民会議に協力して、例えばさっき反町委員から話がありましたようにウッドデッキでミニコンサートをやったりとか、そういうときに商店街で何かできないかなと思っているものですから、新丸子全体の商店街の会長にもこれから話をしたいと思っています。もう本当に手がなくて、みんな困っているんですよ。それがもうネックになって、頭が痛いところです。商店街で協力したいという気持ちはありますけれども、みんななかなか自分の商売をほっぽってまでできないというのが現実なところなんです。

鈴木委員長 わかりました。何か私たちが通っていると、新丸子の商店街なんかはすごく

にぎやかで、とてもいい商店街だななんて思って、いつも川連副委員長を思い出しているんですけども、そういう深い悩みがあったということで、皆さんも共有していかなければいけないですね。

それでは、次のテーマとして、区制40周年に向けてということを経験に選ぶということで皆さんご異議はないでしょうか。よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

鈴木委員長 区制40周年ということで、区民会議がどんなふうにしてかわれるのか、区制40周年という大きな節目にどうやって取り組んでいけばいいのか、次回、皆さんで本当に深く審議していきたいと思います。ここから1歩出るとまだまだ灼熱で暑いですが、冷んやりしたどこかで、ああ、そうだ、こういうひらめきもあったというようなものがございましたら即メモしておきまして、次回発表していただければいいなと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

5 報告事項

鈴木委員長 それでは最後に、事務局からですが、何かございますでしょうか。連絡事項などありましたらお願いいたします。

事務局 それでは、事務局から第3回区民会議と第4回の区民会議の日程について調整させていただきたいと思います。

先ほども委員長からお話しございましたように資料5をおめくりいただくと、これからの区民会議のスケジュールという形でお示ししてございます。きょう決めさせていただきたい日程は10月に予定しています第3回の区民会議と1月の第4回の区民会議につきましてです。区役所の会議室が1月に天井の工事により使えなくなり、中原消防署の会議室を空けていただいている都合もございまして、本日あわせて日程調整をさせていただきたいと思います。

まず最初、第3回の区民会議の日程でございますが、そこに書いてございますように事務局で予定を組んでいますのが10月18日（火）、19日（水）、20日（木）、翌週の26日（水）で考えてございます。時間につきましては本日と同じく2時からという形で予定をしております。今のところ、スケジュールの中でご都合の悪い委員はいらっしゃるでしょうか。ちょっとまだ先の話であれなんですけど、もしご都合が悪い委員がおりましたら、会議終了後、事務局までお申し出いただければと思います。

先ほど申し上げましたように第4回の区民会議の日程も調整させていただきたいと思います。第4回につきましては、1月17日（火）、それと18日（水）、19日（木）、20日（金）ということで、これも時間は同じく2時からという形で、場所は先ほど申しましたとおり中原消防署の会議室となります。詳細な地図につきましては、また開催通知を差し上げるときに案内を同封させていただきたいと思います。これにつきましては来年の話な

んですが、もしまた都合が悪い日程等ございましたら、帰りがけに事務局にお申し出いただければと思います。今日くらいにある程度調整して、なるべく早く日程につきましてはまた、各委員の皆様にご連絡申し上げたいと考えてございます。

事務局からは以上でございます。よろしくお願いいたします。

鈴木委員長 委員の皆様でほかに何か言い忘れたことだとか、これは聞いておかなければいけないというようなことはございませんでしょうか。大丈夫でしょうか。

6 閉会

鈴木委員長 皆様のご協力で進行が大変スムーズにいきまして、予定の時間よりかなり早く終わりましたが、この暑さでございますので、早目に始めて、早目に終わりたいという、吉房委員がいたらどんなに喜んだでしょうかと、大変残念でございますが、本日の区民会議はこれで終了させていただきたいと思います。皆様のおかげで無事終了しましたことを両副委員長ともどもお礼申し上げます。ありがとうございました。

午後 3 時 47 分 閉 会